



“心豊かに
笑顔あふれる”

青森県
総合社会教育センター

響

所報〈ひびき〉

No.
114

令和元年 7月4日

2030年の社会教育・生涯学習に向けて ～Society5.0の到来と対応～



青森県総合社会教育センター 所長 児玉 政光

令和の時代を迎え、人工知能（AI）やビッグデータ、IoT等の技術革新が劇的に進んでいる。今後は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会として、超スマート社会（Society5.0）が到来し、10年後には多くの職業がAI等に代替されるとの背筋が寒くなるような予測もされる。

また、医療技術の発達等により健康寿命は延伸し、人生100年時代が到来し、教育→仕事→老後という単線型の人生から生涯において複数の仕事に携わることや学び直しなどマルチステージの人生への変化も予測されている。

一方、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」においては「誰一人取り残さない」をテーマに掲げており、この理念は昨年12月に策定された県基本計画「選ばれる青森への挑戦」においても踏まえることとされている。

さらに、様々な意味での社会的少数者や多様な価値観を持つ者との協働など、多様な働き方を受容するダイバーシティの考え方も広まりつつある。

このような中、昨年12月の中央教育審議会の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、年齢・性別・障害の有無や国籍・所得等にかかわらず、孤立しがちな人や生きづらさを抱えた人を含め、すべての人が共に認めあい温かい関係性の中で自らを高めながら暮らすことのできる社会を実現するため、社会教育は大きな役割を果たしうるとされている。

また、学校教育においても、昨年10月に告示された高等学校新学習指導要領において子供たちが予測困難な社会の変化に主体的に関わり、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、主体的・対話的で深い学びを柱とした授業改善を進められることとなった。

県基本計画には、2030年の青森県の目指す姿が示されているが、人口が減少しても安心して暮らしていける持続可能な青森県づくりのためには、青森県民一人ひとりの学びとつながり、そのための社会教育・生涯学習はその形を変えながらも大きな役割が求められるものと考えている。

青森県総合社会教育センター

検索

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>